

探鳥会報告

【目的】 野鳥の生息状況を調査する

【調査地域】 裏磐梯地区

【結果・考察】

冬（1月～3月）

前年11月頃に飛来してきたレンジャク、ベニヒワ、オオマシコなどは年が明けて、行動パターンが落ち着いてきたため（行動パターンを把握するのが重要）、毎日観察できるようになった。

レンジャク400羽ほど飛来し、2月になるとたわわに実ったカンボクも食べつくし、南下していった。ベニヒワ200羽は4月の終わりまで留まっていた。カラマツの実が豊富だったためと思われる。イスカも数年ぶりに飛来し、北帰行の5月まで見ることができた。



オオマシコ



ヒレンジャク



ベニヒワ



イスカ

裏磐梯でもこれら4種類の野鳥が多数観察できる機会はそう多くなく、冬鳥観察には非常に恵まれた冬であった。

春・夏（4月～9月）

夏鳥は、4月後半から5月頃に例年通りに飛来してきた。

オオジシギは、曾原地区でひとつがい確認できただけで、細野地区周辺では確認できず。

ミサゴの繁殖は今年で4回目となり、湖の島の同じ場所で枝を足して営巣しているのが確認できた。



エゾビタキ

曾原地区では本年、ガビチョウのさえずりを頻繁に確認しており、年々増加傾向にあるように思われる。

空梅雨で餌取りが順調だったためか、どの鳥も子育て、巣立ちが早かった。

9月にはミズキの実もなり、エゾビタキが10月中旬頃まで確認でき、その後南下していった。

秋・冬（10月～12月）

例年に比べ比較的気温が高く、爆弾低気圧がなかったせいか、今冬は冬鳥の飛来が極めて少なかった。

レンジャクは11月中旬過ぎに20羽程飛来してきたが、その後の飛来はなかったが、年明けに100羽ほど飛来してきた模様。マヒワは例年よりは少ないものの飛来してきているが、ベニヒワの飛来は確認できず。オオマシコもキハダの実がなっていないので、今冬は期待薄と思われる。

【概要】

(1) 調査実施日

第 1回 平成30年 1月15日
第 2回 平成30年 2月20日
第 3回 平成30年 3月16日
第 4回 平成30年 4月11日
第 5回 平成30年 5月18日
第 6回 平成30年 6月20日
第 7回 平成30年 7月19日
第 8回 平成30年 9月12日
第

9回 平成30年10月10日

第10回 平成30年11月14日

第11回 平成30年12月12日

(2) 調査者

裏磐梯エナガの会

以上